

欧州自治研修視察に参加して

安 富 康 賀

昭和六十三年度山梨県市職員欧州自治研修は山梨県市長会主催による第一回の海外研修として、都留市長を団長に十五名により十一月二十日から十一月三十日までの十一日間、イギリス、西ドイツ、スイス、フランスの四ヶ国の行政視察を行いました。

何しろ初めての海外研修であり、生活様式や習慣の異なった国々の中で、緊張した毎日でしたが、訪問した国々の自然・芸術・文化等歴史を物語る文化遺産に接し、感動することばかりで、これまでに経験の出来なかったことを得られたことは大変意義あることでした。

この度の視察研修は限られた日時の中であり、それぞれの国の一面だけを見て表現することは難しいことではありますが、私なりの所感を述べてみたいと思います。

○イギリス（ロンドン）
イギリスは、明治維新以来、日本の近代化の手本であったと言えるよう。

ロンドン発祥の地「シティ」（金融中心街）を中心に二市三十一区からなるロンドンは、人口約六七〇万人、イギリスの首都というよりも大英帝国の首都のなごりを残す多面的な大都市である。

ロンドン・ドクランド開発視察

シティに隣接するテムズ川の両岸でシティ機能の強化を図り、かつ港湾機能の衰退、失業者増等の問題に対処する観点から新オフィス地区を造成する計画が進展している。

この計画は、大袈裟に言えばロンドンの将来をこの開発に賭けているといっても過言ではないように感じた。

そのほかロンドンでの視察は、ハイバリー区市民相談所・ジョンスコットヘルスセンター（イギリスの医療制度の仕組み）を訪問し研修を行った。

○西ドイツ（フランクフルト、ハイドルベルグ）
フランクフルト

メイン川に面した六十八万人の都市。ドイツで最初の国民会議が開かれた町。また文豪ゲーテを生んだフランクフルトは、戦後の西ドイツの金融と経済の中心として発展し、高層ビルが建ち並ぶ近代的な都市であった。

ハイデルベルグ
市役所を訪問し行政課長より説明を受ける。

市内をネッカー川が貫流し、山の懐にある人口十三万人のうち二万人が大学生の、学園と古城の観

光都市である。

ドイツ最古のハイデルベルグ大学は、世界的にも指導的大学として発展をとげ、多くのノーベル賞受賞者を輩出しているという。

市役所のまわりの建物は、二〇〇年前のものがあり、歴史的背景により簡単に改築することが出来ず、暖房施設等の問題が行政の課題となっている。このように歴史や伝統を守ろうとする個性豊かな都市であった。

○スイス（ジュネーブ）
政府や民間レベルの二〇〇を超す各種国際機関がジュネーブに本部を置いている。

レマン湖の西、ローヌ川が地中海に向かって流れ出す位置に発達したジュネーブは、古くから交通の要衝として栄えてきた町である。

スイスでは、土曜日、日曜日は完全休日であり、平穩そのもので軍備のない国のように思えるが、男子十九歳になると兵役につき五

研修に参加した各市の職員
（フランスにて）



シャモニーは、富士吉田市と姉妹都市の友好を結んでいる、世界的に有名なリゾート地である。人口一万人程度の町であるが、シーズンには世界各国からの観光客で賑わい、そのため約三万人収容の宿泊施設等が整っている。

パリ

「芸術の都」・「花の都」パリ、古代文化や遺跡を見学し往時の偉大さに驚くばかりであった。国民が歴史や文化に誇りを持ち、保護保存に對し一体となって後世に伝えて行こうとする基本的姿勢に学ぶべき点は多い。

パリの都市基盤は日本の江戸時代から明治の時代にかけて、外国からの侵攻を防ぎながら完成させている。例えば、下水道は日本の明治三十八年には完成しており、下水道の中を小型の舟が通れるほどの規模である。

今回の研修で総じていえることは、各都市とも社会福祉対策・教育・都市環境整備等について真剣に取り組んでおり、現在それぞれ二十一世紀の都市像を模索しているように感じられた。また、前世からの文化遺産や自然の保護に信念を持って取り組んでいることに感銘しました。

最後に、この度の視察研修の機会を与えて頂き貴重な体験を得たことに深く感謝するとともに、この研修を通して修得した成果を今後の地方自治伸展に役立たせたいと考えています。